

『金瓶梅詞話』における疑問代名詞について

孟 子 敏

松 山 大 学
言語文化研究 第32巻第2号（抜刷）
2013年3月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 32 No. 2 March 2013

『金瓶梅詞話』における疑問代名詞について

孟 子 敏

1 は じ め に

1.1 『金瓶梅詞話』について

『金瓶梅詞話』は、蘭陵笑笑生の著であり、全10巻で、全100回から構成されており、全字数は80万余である。『金瓶梅詞話』は16世紀末に成立し、中国文学史上、重要な転換点をなす写実小説として非常に有名である。また、写実主義の小説として非常に優れているばかりでなく、当時の口語形式の口頭語の実態にきわめて近いものを伝える「方言調査報告書」とも言えるものである。

この小説は山東方言を基礎として書かれており、16世紀末から17世紀初期にかけての山東南部方言を記録している。

本論文では、大安影印本『金瓶梅詞話』を底本として利用する。この影印本は日光山輪王寺慈眼堂蔵本と徳山毛利家棲息堂本に基づいており、ごく一部分は北京図書館蔵本に拠っている。日光山輪王寺慈眼堂蔵本・徳山毛利家棲息堂本と北京図書館蔵本という三種は現存する『金瓶梅詞話』系統の版本で完全に揃っているものである。中国の北京図書館本（現在台湾故宫博物院に収蔵されている）は1932年に中国山西省介休県で発見されたもので、現在にいたるまでで最も早く発見された『金瓶梅詞話』系統の版本である。

日本の日光山輪王寺慈眼堂本は、1941年に栃木県日光山輪王寺慈眼堂で発見された。

徳山毛利家棲息堂本は、1962年に山口県徳山毛利家栖息堂で発見された。

日光山輪王寺慈眼堂本と北京図書館本は同版である。だが、北京図書館本は

人為的書き換えの箇所がある。徳山毛利家棲息堂本はこの二つと異なる箇所があり、それは、第五回における第九頁（末頁）の所である。長澤規矩也は、慈眼堂本は棲息堂本より早いテキストである可能性が高いと指摘した（長澤規矩也 1963）。

1.2 疑問代名詞について

疑問代名詞は話し手に対してものごとに対する疑問を表す代名詞である。『金瓶梅詞話』における疑問代名詞は、おおよそ以下の5種類に分けることができる。

- ① 人を指す疑問代名詞。たとえば「誰」・「誰人」のようなものである。
- ② 選択を指す疑問代名詞。ある範囲で選択肢を対象として疑問を表す代名詞である。たとえば、「那」および「那」を基にして構成される「那個」のようなものである。
- ③ 内容を指す疑問代名詞。ものごとに対して、よく分かっていない内容を対象として疑問を表す代名詞である。たとえば、「什麼」・「甚麼」・「甚」・「何」等である。「何」は古代漢語から継承されたものである。たとえば、

(1) 何老人道：“當用何藥以治之？”(061/24a/05*)

この「何」に対しては、本章は検討を加えない。

- ④ 様態や方式を指す疑問代名詞。ものごとの様態や行為の方式を対象として疑問を表す代名詞である。たとえば、「怎」・「怎的」・「怎生」である。
- ⑤ 数量を指す疑問代名詞。主に使われるものは「幾」・「多少」・「多大」・「多咱」などである。

本章では、上記のものを対象として考察を行う。

* 026/11a/06 は、「『金瓶梅詞話』第26回目、第11ページ目の前半、第6行目」という意味を表す。前半はaで表示、後半はbで表示する。

2 人を指す疑問代名詞

『金瓶梅詞話』で主に用いられるものは、「誰」・「誰人」である。

2.1 「誰」の意味と使用環境

2.1.1 「誰」の意味

「誰」と「孰」とは古代漢語で使われるものであり、「孰」が優勢を占めていたが、中古期になってからは、「誰」が優勢になった。近代漢語で、「誰」は人を指す疑問代名詞として常用されている。

『金瓶梅詞話』では、「誰」は579回用いられる（「誰家」・「誰人」を含む）。その用法は現代中国語と完璧に一致している。

文脈によって、「誰」には主に以下の三つの用法がある。

① 人を指しての疑問。これは「誰」本来の意味である。例を見てみよう。

- (1) 金蓮便問道：“賊小肉兒，你罵誰哩，誰惹你來？”(022/07a/01～02)
- (2) 伯爵因問：哥後日請誰？(032/01b/10～11)
- (3) 西門慶進來問：“今日茶是誰頓的？”(024/09b/01)
- (4) 西門慶問道：“你與誰辨嘴來？”(018/10b/06)
- (5) 他帖兒上寫着誰的名字？(013/05a/01)

② 反語を表す。この「誰」は「人がいない」という意味を表す。例を見てみよう。

- (6) 西門慶道：“傻狗材！誰對你說來？你敢錯聽了！敢不是我衙門裡？敢是周守備府裡。”(069/17b/08～09)
- (7) 金蓮道：“我在這背哈喇子，誰曉的？”(021/04a/06～07)
- (8) 你家漢子成日標着人在院里，頑酒快肉吃，大把家過了銀子錢家去。你

過陰去來，誰不知道你討保頭錢？（052/05b/09～11）

- (9) 薛內相道：“那蠻聲哈刺，誰曉的他唱的是甚麼！”（064/06b/02～03）

③ 任意的な人を指す。この「誰」は特定の対象を指していない。

- (10) 惠蓮道：“上頭要酒，誰教你不伺候！ 関我甚事，不罵你罵誰。”（024/01b/11）

- (11) 李瓶兒道：“媽媽子，一瓶兩瓶取了來，打水不渾的，夠誰吃！ 要取一兩壘兒來。”（024/05b/01～02）

- (12) 月娘道：“該那個管，你交與那個就是了，來問我怎的？ 誰肯讓的誰！”（076/10b/07～08）

- (13) 婦人道：“好大胆奴才，你敢是拿誰的鞋來搪塞我？ 倒如何說我是三隻腳的蟾？”（028/07b/05～06）

2.1.2 「誰」の使用環境

「誰」は疑問の用法と反語の用法とがあるが、どのような区別が見られるのであろうか。検討の結果次のように言えよう。話し手が聞き手に向かって発話するとき、「誰」を使って、疑問の意を伝える。たとえば、上述した例(1)～(5)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき、「誰」を使って、反語を表す。たとえば、上述した例(6)～(9)である。また、聞き手が、発話していないある人物を話し手として見做し、その人物から何らかの情報を得ることにより発話する。この場合、「誰」を使うことにより反語が表される。たとえば、例(14)である。

- (14) 西門慶見婦人在牀上倒胸着身子哭泣，見他進去不起，身心中就有幾分不悅。先把兩個丫頭都趕去空房裡住了。西門慶走來，椅子上坐下。指着婦人罵道：“淫婦你既然虧心，何消來我家上吊。你跟着那矮王八過去便

了，誰請你來！”（019/14a/05～08）

2.2 「誰人」の意味と使用環境

2.2.1 「誰人」の意味

「誰人」という形態素は晩唐によく用いられたものである。『金瓶梅詞話』では49回使われる。「誰人」は「なんの人」という意味を表し、尋ねる中心は「誰」と異なる。文脈によっては、「誰人」は、特定の人を指しての疑問を表したり、反語を表したり、任意に人を指したりという三つの用法がある。一つずつ例を見てみよう。

- (15) 便問老婆：是那裡的段？ 誰人與你的？ 趁早實說。（025/04b/05～6）
- (16) 婦人道：“我不好罵的，誰人七個頭八個胆，敢進我這房裡來？ 只許了你恁沒大沒小的罷了！”（029/12b/01～02）
- (17) 雖然爹娘不言語，你我心上何安？ 誰人不愛錢，俺裡邊人家最忌叫這個名聲兒，傳出去醜聽。（043/07b/07～08）

2.2.2 「誰人」の使用環境

「誰人」の使用環境は2.1.2ですでに触れた「誰」と同じである。話し手が聞き手に向かって発話するとき、「誰」を使っての疑問である。たとえば、上述した例(15)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき、「誰」を使って反語を表す。たとえば上述した(16)である。

3 選択を指す疑問代名詞

『金瓶梅詞話』で、主に使われるものは「那」および「那」を基にして構成される「那個」・「那些」・「那裡」・「那樣」・「那般」である。

3.1 「那」の意味と使用環境

3.1.1 「那」の意味

漢語史において、「那」は主に反語を表すのが普通であったが、唐代になってから、疑問を表す「那」が多くなった。『金瓶梅詞話』では、疑問代名詞として使われる「那」は約213回見られる。文脈によって、「那」は以下の三つの用法がある。

① 疑問を表す。一定の範囲で確認するとき、「那」を使って疑問を表す。これは「那」の本来の意味である。例を見てみよう。

(1) 大雪裡，又不知勾了那去？（021/10b/11～01）

(2) 月娘坐在炕上聽着，他說：“你每說了這一日，我不懂。不知說的是那家話。”（032/05b/06～07）

(3) 應伯爵道：“哥，那四個？”西門慶道：“吳惠，邵奉，鄭春，左順。”（072/22a/08～09）

② 反語を表す。この場合、「那」は実際に表現する意味は「否定」である。たとえば、例(4)で、「那」は「不是」（ではない）という意味を表す。例を見てみよう。

(4) 雪娥道：“那娘與他，到是爺與他的哩！”（025/04b/02～03）

(5) 伯爵一把手拉著春鴻，說：“傻孩兒，你起來！我無有個不作成人的，肯要你謝，你那得錢兒來！”（087/02a/08～10）

③ 任意の選択を表す。この「那」は一定の範囲での任意な選択を表す。例を見てみよう。

(6) 罵道：“賊提口拔舌見鬼的囚根子！我那一夜不在屋裡睡，怎的不來

家！” (023/08b/05～06)

(7) 西門慶出來，就叫書童，分付：在家別往那去了。(031/07a/07～08)

3.1.2 「那」の使用環境

話し手が聞き手に向かって発話するときの、「那」を使つての疑問である。たとえば、上述した例(1)，(2)，(3)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき、「那」を使つて、反語を表す。たとえば、上述した例(4)，(5)である。なお、聞き手が、発話していない人物を話し手として見做し、その人物から何らかの情報を得て発話する場合には、「那」をも使つて反語を表す。

3.2 「那」を基にしての複合形態素

疑問代名詞としての「那」と単位詞との結合力も強い。単位詞とはものごとの単位を表す語彙である。本研究では、「個」・「些」・「様」・「里」などのようなものは単位詞と見る。「那」とこのような単位詞が合体すると、複合形態素が構成される。このように構成された複合形態素は、近代漢語における疑問代名詞体系の構成要素となった。

3.2.1 「那個」

この中の「個」は「個・箇・个」という三つの書き方で書かれる。『金瓶梅詞話』では、「那個」・「那箇」・「那个」のような三つの形を持っている。疑問代名詞としての「那個」の用例は154回、「那箇」は12回、「那个」は1回である。以下の記述においては「那個」で代表させる。

「那個」は一定の範囲で一つの選択を確認することによって疑問を表したり、反語を表したり、任意の一つの選択を指して疑問を表したりする。一つずつ例を見てみよう。

(8) 西門慶看見，問月娘：“那個是薛姑子？ 賊胖秃淫婦！ 來我這裡做

甚麼？”(051/04b/02～03)

- (9) 婦人道：“呸！ 恁囚根子，那個沒個娘老子！ 就是石頭貉刺兒裡迸出來，也有個窩巢兒！ 囊胡兒生的，也有個仁兒！(025/04b/09～11)

- (10) 惠蓮道：“我不得閑，與娘納鞋哩！ 隨問教那個燒燒兒罷，巴巴坐名兒叫我燒！”(023/01b/11～01)

「那個」の使用環境は「那」と同じで，話し手が聞き手に向かって発話するときの，「那個」を使つての疑問である。たとえば，上述した例(8)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき，「那個」を使つて反語を表す。たとえば，上述した例(9)である。なお，聞き手が，発話していない人物を話し手として見做し，その人物から何らかの情報を得て発話する。この場合，「那個」をも使つて反語を表されることがある。

3.2.2 「那些」と「那些兒」

『金瓶梅詞話』では，「那些」と「那些兒」という二つの複合形態素が用いられる。「那ー」という形の一部が指示代名詞として使われており，一部が疑問代名詞として使われているという区分によって，「那些」と「那些兒」という形は指示代名詞としても，疑問代名詞としても使うことができるはずであるが，「那些」と「那些兒」はその状態を呈していない。

『金瓶梅詞話』における「那些」という形は36回使われ，すべて指示代名詞である。「那些兒」という形態素は17回使われ，すべて疑問代名詞である。疑問を表す「那些兒」のケースが見られず，「那些兒」は反語を表したり，任意のいくつかの選択を指して疑問を表したりするのである。それぞれ二つずつ例を見てみよう。

- (11) 玉樓道：“漢子沒正條，大的又不管，咱每能走不能飛，到的那些兒！”
(026/07b/07～08)

- (12) 因蹣起一隻脚來：“你看老娘這脚那些兒放着歪！ 你怎罵我是搥刺骨？” (043/06a/08～09)
- (13) 西門慶看了，分付玳安：拿到後邊與你娘每瞧瞧去。看好不好，有那些兒不是，說來好改。(063/03a/05～07)
- (14) 這玳安拿到後邊，向月娘道：“爹說交娘每瞧瞧六姐這影，看畫的如何。那些兒不像說，出去教韓先生好改。” (063/03a/07～08)

3.2.3 「那等」・「那樣」

「那－」の一部が指示代名詞として使われており，一部が疑問代名詞として使われているという区分によって，「那等」・「那樣」という形は指示代名詞としても，疑問代名詞としても使うことができるはずであるが，「那等」の65回ある用例はすべて指示代名詞として使われており，「那樣」の17回ある用例の中，16回は指示代名詞として使われており，疑問代名詞としては1回しか見られない。その一例を見てみよう。

- (15) 不嫁這等人家再嫁那樣人家？ 我就做硬主媒保這門親事。(007/07b/07～08)

3.2.4 「那裡」

『金瓶梅詞話』では，「那裡」・「那里」・「那裏」のような三つの書き方が見られ，「那裡」は512回，「那里」は465回，「那裏」は5回であり，合計で982回の用例が見られる。「那裡」と「那里」という書き方は絶対的に優位を占め，「那裏」は極く少数である。「那裡」・「那里」・「那裏」という書き方で，指示代名詞あるいは疑問代名詞として使われる。疑問代名詞としての「那裡」・「那里」・「那裏」は約573回である。

「那裡」は一定の範囲で一つの選択肢としての場所を確認して疑問を表したり，反語を表したり，任意の一つの選択肢としての場所を指して疑問を表した

りする。それぞれ一つずつ例を見てみよう。ただ、例(16)にある2番目の「那裡」は任意の用法である。

- (16) 西門慶：“我在那裡歇宿？”月娘道：“隨你那裡歇宿。再不你也跟了他一處去歇罷！”(014/13a/11～13b/01)
- (17) 那金蓮便從傍邊雪洞兒里鑽出來，說道：“我在這里浄了浄手，誰往那去來？ 那里有猫來誑了！”(052/19a/01～02)
- (18) 婆子道：“好奶奶！ 你比那個不聰明？ 趁着老爹這等好時月，你受用到那里是那里。”(076/16b/01～02)

話し手が聞き手に向かって発話するとき、「那裡」を使って、疑問を伝える。たとえば、上述した例(16)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき、「那裡」を使って、反語を表す。たとえば、上述した例(17)である。なお、聞き手が、発話していない人物を話し手として見做し、その人物から何らかの情報を得て発話するという場合には、「那裡」をも使って反語を表すことができる。

4 内容を指す疑問代名詞

『金瓶梅詞話』で主に使われるものは「什麼」・「甚麼」・「甚」である。「什麼」という疑問代名詞は唐代に使い始められたものである。早期では、「是物」・「是勿」・「是没」・「甚没」・「甚物」・「什没」などのような表記法で用いられる。晩唐になってから、「甚麼」・「什麼」という表記法が出現した。宋代に入ってから、「甚」・「什麼」という表記法が固定化した。

「是物」という形は「什麼」の最も早い表記法である。これについて、唐鉞(1926)は、この中にある「物」という形態素が、魏晉期の疑問を表す「何物」の中の「物」から変わってきたのだと指摘した。現在、この説は学界で公認されていると言ってよいであろう。呂叔湘(1985)は、「是物」という形態素は

「是何物」という形態素が縮約されたものと見る。志村良治（1984）は、「甚」・「甚没」という表記法が「是没」の *sandhi* を発生して、齎したものと指摘している。吳福祥（1996）は、「是物」という表記法の中の「物」という形態素が「何物」が直接縮約されたものだと考えた。

4.1 「什麼」・「甚麼」・「甚」の意味と使用環境

4.1.1 「什麼」・「甚麼」・「甚」の用法

『金瓶梅詞話』では、「什麼」が201回、「甚麼」が644回（2例の「甚模」を含む）、「甚」が277回用いられている。「什麼」・「甚麼」・「甚」の用法は同じである。「什麼」と「甚麼」をあわせると、845回用いられている。「什麼」・「甚麼」の後に「兒」を付ける用例も見られる。

「什麼」・「甚麼」・「甚」は、主に以下の三つの用法が見られる。

① 疑問を表す。ある対象について話し手は何も分かっていないとき、「什麼」・「甚麼」・「甚」を使って疑問を表す。それぞれ二つずつ例を見てみよう。

- (1) 今日花大兩口子沒說甚麼? (016/11b/10)
- (2) 你叫陳姐夫寫甚麼帖子? (026/08a/02)
- (3) 這咱晚, 平白抱出他來做什麼? (032/11a/03)
- (4) 背面墜着他名字, 吳什麼元? (039/11b/10~11)
- (5) 金蓮便問來興兒: “你來有甚事?” (025/07b/01)
- (6) 他大娘也不在家, 有甚話說? (076/15b/11~16a/01)

② 反語を表す。「什麼」・「甚麼」・「甚」を使って、否定を表す。例を見てみよう。

- (7) 玉樓道: “又說鞋哩, 這個也不是舌頭……, 惹的一丈青好不在後邊海罵。罵那個淫婦王八羔子學舌, 打了他小廝。說‘他小廝一點尿不曉孩子,

- 曉的甚麼，便唆調打了他恁一頓’。”(029/02b/03~09)
- (8) 甚麼好老婆，一個大紫腔色黑淫婦！(061/09a/01~02)
- (9) 罵道：“怪小淫婦兒，什麼晚不晚，你娘那緒！”(032/06a/11~06b/01)
- (10) 平白噪刺刺的，抱什麼空窩！(033/10a/02)
- (11) 巴巴的關着門兒寫禮帖。什麼機密謠言，什麼三隻腿的金剛兩個觔角的象！(035/04a/05~6)
- (12) 李瓶兒道：“奴有甚話說？奴與娘做姊妹這幾年，又沒曾虧了我。”(062/13a/03~04)
- (13) 又費煩他治甚衣服，打甚粧奩愁！(077/18a/07)

③ 任意のものごとを指す。「什麼」・「甚麼」・「甚」は、特定のものを指さない。例を見てみよう。

- (14) 玳安道：“他一字通沒敢題甚麼。”(016/10a/08)
- (15) 月娘道：“你叫他回來，打發他吃些甚麼兒。”(045/08b/09~10)
- (16) 急水裡怎麼下得槳？比不的買什麼兒，拏了銀子到市上就買的來了？(036/02b/02~03)
- (17) 小孩兒家屁股大—敢弔了心！又不知家裡外頭什麼人扯落的你，恁有魂沒識，心不在肝上。(033/05a/10~11)
- (18) 說道：“小的主人西門慶沒甚孝順，些小微物進獻老爺賞人便了。”(030/04a/04~05)
- (19) 老爹分付，隨問有甚人家經事，不敢應承。(039/03a/02~03)

4.1.2 「什麼」・「甚麼」・「甚」の使用環境

話し手が聞き手に向かって発話するときは、「什麼」・「甚麼」・「甚」を使つての疑問である。たとえば、上述した例(1)~(6)である。聞き手が話し手に向か

て発話するとき、「什麼」・「甚麼」・「甚」を使って、反語を表す。たとえば、上述した例(7)～(13)である。なお、聞き手が、発話していない人物を話し手として見做し、そのような人物から何らかの情報を得て発話する場合には、「什麼」・「甚麼」・「甚」にも反語を表す用法がある。

4.2 「什麼」・「甚麼」・「甚」の文法差

4.2.1 一致する点

「什麼」・「甚麼」・「甚」には、主に以下のような一致点が見られる。

目的語として、あるいは目的語の一部分として使われる。これは「什麼」・「甚麼」・「甚」の主要的な文法機能だと言える。「什麼」・「甚麼」・「甚」の用例の中、約 96%はこの状況に属する。「什麼事兒不知道」のように主語としての用例は極く少数であり、やはり検討する必要がある。特に注意すべきは、例(22)で、「不什麼清淨姑姑兒」にある「不」の後の動詞が省略されたと考え、「什麼清淨姑姑兒」を目的語と見做す事ができることである。例を見てみよう。

- (20) 金蓮道：“也沒見這李大姐，不知和他笑什麼，恰似俺每拏了他的一般。”(033/05b/02～04)
- (21) 金蓮道：“小孩兒家，屁股大一敢弔了心！又不知家裡外頭什麼人扯落的你，恁有魂沒識，心不在肝上。”(033/05a/10～11)
- (22) 惠蓮道：“我養漢你看見來？沒有扯臊淡哩！嫂子你也不什麼清淨姑姑兒。”(024/10a/07～08)
- (23) 見了漢子，就邪的不知怎麼樣兒的了。只當兩個把酒推倒了纔罷了。都還嘻嘻哈哈，不知笑的是甚麼，把火也灑死了。(046/04b/03046/04～05)
- (24) 伯爵道：“他曾見過甚麼大頭面”(052/06a/06)
- (25) 西門慶道：“沒的胡說，有甚心上人手下人！”(067/17b/10～11)
- (26) 那婦人迎門接住，道：“這塊羊肉又買他做甚？”(056/06b/09)

4.2.2 相異なる点

「什麼」・「甚麼」・「甚」では、以下の相異なる点が見られる。

「什麼」と「甚麼」は、単独で文の要素になることができる。たとえば、例(27)～(30)である。「甚」は一般的に、その後にはほかの形態素が来ることを条件として文の要素になることができる。たとえば、例(31)、(32)である。例を見てみよう。

- (27) 月娘道：“左右是個内官家，又沒什麼。隨他擺弄一回子就是了。”(032/04a/10～11)
- (28) 書童問道：“他說我什麼來？”(035/02a/09)
- (29) 他兩個都走去了，我看你留下我做甚麼？(027/07b/10～11)
- (30) 賊囚，你在這裡笑甚麼，不在上邊看酒！(031/08a/05～06)
- (31) 西門慶道：“俺每說句話兒，有甚這閑勾當。”(068/15a/05)
- (32) 月娘便問：“保山來有甚事。”(091/04b/01)

「甚」は単独で文の要素になるケースもあるが、その「甚」を基にして作られるフレーズは固定的な形で用いられる。たとえば、「做甚」（「則甚」を含む）などである。例を見てみよう。

- (33) 悄悄使玳安問隔壁賣豆腐老姬，此家姓甚名誰。(071/11a/01)
- (34) 伯爵道：“又買禮做甚？ 我就頭着地，好歹請眾嫂子到寒家光降光降。”(067/23a/09～10)
- (35) 甚麼瓶姨鳥姨，題那淫婦則甚！(018/10b/02)

4.3 「什麼」・「甚麼」と「甚」の変遷

ここでは、「什麼」と「甚麼」は同一の形態素と見て、「甚麼」で代表することとする。また、この形態素に属するほかの表記法はすべて「甚麼」という形で統一して表示する。「甚」は「甚底」・「甚的」を含む。

「甚麼」と「甚」とは兄弟のようなものではあるが、それらが出現して以来、それぞれの書記言語の領域を維持するため、一貫して競合し続けてきた。ここで、「甚麼」と「甚」の唐、宋、元、明、清における分布を考察して、その変遷を見てみよう。用いる資料は『敦煌変文集』、『祖堂集』、『三朝北盟会編』（その中の6篇）、『劉知遠諸宮調』（以上、呉福祥1996）、『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戲曲集』、『水滸伝』、『金瓶梅詞話』、『紅樓夢』などである。「甚麼」と「甚」の分布結果は以下の表1のようである。

この表から見れば、以下のように考えられよう。

① 『祖堂集』では、「甚」は見られず、すべて「甚麼」で表記される。これは『敦煌変文集』および宋代のほかの作品とは正反対である。このことが方言差などを反映するものであるかどうかはさらに検討する必要がある。ここでは、一応疑問として残しておく。

② 『祖堂集』は別として、唐代の『敦煌変文集』から元代の『元刊雜劇三十種』まででは、「甚」が優勢を占めている。元末の『關漢卿戲曲集』では、「甚」と「甚麼」の地位は正反対となっており、「甚麼」が優勢を占めるようになる。そのあと、この状態は継承されてゆく。『紅樓夢』になると、「甚麼」は絶対的に

表1 「甚麼」と「甚」の分布表

| 作 品 名 | 所属時代 | 「甚麼」 | 「甚」 | 備 考 |
|-----------|------|-------|-----|----------|
| 『敦煌変文集』 | 唐 | 3 | 108 | |
| 『祖堂集』 | 唐 | 1,084 | | |
| 『三朝北盟会編』 | 宋 | 1 | 39 | |
| 『劉知遠諸宮調』 | 宋 | | 12 | |
| 『元刊雜劇三十種』 | 元 | 51 | 205 | |
| 『關漢卿戲曲集』 | 元 | 136 | 78 | |
| 『水滸伝』 | 明 | 391 | 244 | 詞曲は含まれない |
| 『金瓶梅詞話』 | 明 | 845 | 277 | |
| 『紅樓夢』 | 清 | 1,675 | 32 | 詞曲は含まれない |

優勢を占めるようになる。「甚」は極めて少数となっており、文語として使われている疑いが高い。この変遷は、以下の図1のようである。

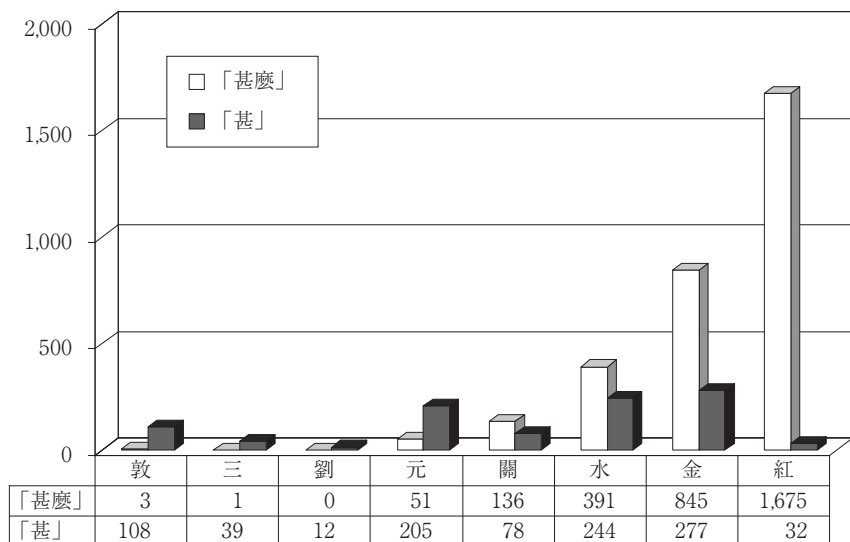


図1 「甚麼」・「甚」の変遷図

5 様態や方式を指す疑問代名詞

『金瓶梅詞話』で、主に使われるものは「怎」・「怎的」・「怎得」・「怎地」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」である。「怎」は「作麼」が縮約されたものである（呂叔湘 1985）。

5.1 「怎」・「怎的」・「怎得」・「怎地」の意味と使用環境

5.1.1 「怎」・「怎的」・「怎得」・「怎地」の意味

『金瓶梅詞話』では、214回（うち2回は誤字としての「恁」である）「怎」が用いられ、746回「怎的」が用いられ、24回「怎得」が用いられ、18回「怎

地」が用いられる。「怎的」・「怎得」・「怎地」は同一の形態素の異なる表記法である。「怎」と「怎的」・「怎得」・「怎地」の用法は同じである。以下においては、「怎的」で「怎的」・「怎得」・「怎地」という三つの形態素を表示する。「怎」・「怎的」は主に以下の三つの用法である。

① 疑問を表す。「怎」・「怎的」を使って様態や方式を聞く。例を見てみよう。

- (1) 因問東家：李家桂兒怎不來？（032/05b/11）
- (2) 伯爵道：“好呀，你兩個來的正好！在那裡來，怎知道俺每在這裡？”（042/06a/11～01）
- (3) 婦人便問：“你既不會與孟三兒拘搭，這簪子怎得到你手里？”（083/02b/03～04）
- (4) 玉樓道：“大娘說請劉婆子來看他看，你怎的不使小廝快請去？”（058/07a/04～05）
- (5) 西門慶道：“小兒病症大象怎的？有紙脉也沒有？”（053/12a/02～03）
- (6) 李瓶兒道：“怎地收驚？”（053/13a/05）
- (7) 伯爵道：“這兩日杭州貨船怎地還不見到？”（056/03b/03）

② 反語を表す。「怎」・「怎的」を使って，否定を表す。例を見てみよう。

- (8) 婦人道：“我羞答答，怎好出去？請他進來見罷！”（069/06b/02）
- (9) 蔡御史道：“他雖故是江西人，倒也沒甚蹊蹺處。只是今日初會，怎不做些模樣。”（049/05a/02～04）
- (10) 街坊隣舍怎得曉的暗地裡事！（013/09a/01）
- (11) 伯爵道：“哥，今日不曾奉酒，怎的好去！”（054/10b/07）
- (12) 狠心的賊！今日便懷恨在心，看你怎的奈何了我！（056/06b/11～07）

a/01)

- (13) 那班蠢材，只顧吃酒飯，却怎地比的那兩個！(055/07b/10)

③ 任意の様態や方式を指す。「怎」・「怎的」を使って、特定の様態や方式を指さない。この用法の「怎」の用例は極く少数である。例を見てみよう。

- (14) 後來怎的停眠整宿，潘金蓮怎做窩主。由他，只休要撞到我手裡，我教他白刀子進去紅刀子出來。(025/06b/08～09)

- (15) 月娘道：“我不怎的，問一聲兒。”(052/08b/03)

- (16) 那婦人說得魂不附體，只得從實招說。將那時收簾子打了西門慶，起并做衣裳，入馬通姦，後怎的踢傷了武大心，用何下藥，王婆怎地教唆下毒，撥置燒化，又怎的娶到家去，一五一十，從頭至尾說了一遍。(087/09a/09～09b/01)

5.1.2 「怎」・「怎的」の使用環境

話し手が聞き手に向かって発話するとき、「怎」・「怎的」を使って、疑問を伝える。たとえば、上述した例(1)～(7)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき、「怎」・「怎的」を使って、反語を表す。たとえば、上述した例(8)～(13)である。なお、聞き手が、発話していない人物を話し手として見做し、そのような話し手から何らかの情報を得て発話する場合には、「怎」・「怎的」をも使って反語を表す。

5.2 「怎」・「怎的」の文法差

5.2.1 一致する点

「怎」・「怎的」は修飾語として、動詞および動詞フレーズの前に置かれる。例を見てみよう。

- (17) 西門慶道：“只怕花二哥來家尋問怎了？”(014/03b/10)
- (18) 那惠祥道：“我怎不是清淨姑姑兒，蹣起腳兒來，比你這淫婦好些兒！”
(024/10a/08～09)
- (19) 我雖是看了幾個女子，都是買肉的，挑担兒的，怎好同你老人家話？
(037/01a/10～11)
- (20) 便問道：“你那日來家怎的不好也？”(012/13a/06～07)
- (21) 如今纔曉得些絃索，却不留下自家歡樂，怎地倒送與別人快話？(055/11a/09～10)

5.2.2 相異なる点

『金瓶梅詞話』では、「怎」・「怎的」には以下の相異点が見られる。

① 「怎的」はセンテンスの末尾に置くことができ、「怎」はできない。例を見てみよう。

- (22) 你過來，我分付你。慌走怎的？(075/02b/05)
- (23) 左來右去，只是那幾句山坡羊，瑣南枝，油里滑言語，上個甚麼擡盤兒也，怎的？我纔乍聽這個曲兒也，怎的？(075/12a/11～12b/01)
- (24) 又不知西門大官性格怎地。(055/10b/09～10)

② 「怎的」はセンテンスの冒頭にある主語の前に置くことができ、「怎」の用例は見られない。注意を要する点としては、例27にある「模様兒」のようなものは単語文と見做しうるということである。例を見てみよう。

- (25) 西門慶道：“怎的那日姐姐桂卿不來走走？”(012/12b/09～10)
- (26) 虔婆便問：“怎的姐夫連日不進來走走？”(012/12b/07～08)
- (27) 金蓮道：“你沒見他老婆，怎的模様兒？”(058/19a/07)

5.3 「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」の意味と使用環境

5.3.1 「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」の意味

『金瓶梅詞話』には、「怎麼」の用例は167回（「怎麼兒」1回を含む）、「怎生」の用例は79回、「怎樣」用例は45回（「怎樣兒」7回を含む）、「怎麼樣」の用例は14回（「怎麼樣兒」9回、「怎模樣」1回を含む）である。「怎樣」は「怎麼樣」が縮約された形と見る。「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」の用法は同じで、主に以下の三つである。

① 疑問を表す。「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」を使って様態や方式を聞く。例を見てみよう。

(28) 西門慶道：“明日他來要回書，怎麼回答他？”（036/02b/05～06）

(29) 他若是問起你來這裡做什麼，你怎生回答他？（008/04a/08）

(30) 明日原差人來討回書，你教我怎樣回答他？（036/02a/06～07）

(31) 伯爵道：“李日新在那里來？ 你沒曾打聽得他每的事怎麼樣兒了？”
（052/13b/11～14a/01）

② 反語を表す。「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」を使って、否定を表す。例を見てみよう。

(32) 從東京來通影邊兒不進後邊歇一夜兒，教人怎麼不惱你！ 冷竈着一把兒，熱竈着一把兒纔好！（075/17a/09～10）

(33) 西門慶道：“俺吳家的這個拙荊，他到好性兒哩！ 不然手下怎生容得這些人！”（016/03b/02～03）

(34) 無故只是多有了這點尿胞種子罷了！ 難道怎麼樣兒的，做甚麼恁擡一個滅一個。（031/10b/09～11）

③ 任意の様態や方式を指す。「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」を使っ

て、特定の様態や方式を指さない。例を見てみよう。

- (35) 桂姐道：“你不說這一聲兒不當啞狗賣！俺每兩日沒往家里去，媽不知怎麼盼哩！”(032/01b/03～04)
- (36) 這春梅便把從前已往清明郊外永福寺撞遇月娘相見的話訴說一遍。後來怎生平安兒偷了解當舖頭面，吳巡檢怎生夾打平安兒，追問月娘奸情之事。薛嫂又怎生說人情，守備替他處斷了事。(097/04b/03～06)
- (37) 伯爵起身說道：“我去罷，家里不知怎樣等着我哩！”(072/24b/09)
- (38) 我洗着眼兒看着他，到明日還不知怎麼樣兒死哩！(075/25b/01～02)

5.3.2 「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」の使用環境

話し手が聞き手に向かって発話するとき，「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」を使って，疑問を伝える。たとえば，上述した例(28)～(31)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき，「怎」・「怎的」を使って，反語を表す。たとえば，上述した例(32)～(34)である。なお，聞き手が，発話していない人物を話し手として見做し，そのような話し手から何らかの情報を得て発話する場合には，「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」をも使って反語を表す。

5.4 「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」の文法差

5.4.1 一致する点

「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」は修飾語として，動詞および動詞フレーズの前に置かれる。例を見てみよう。

- (39) 月娘道：“可又來，我說沒個人兒，自家怎麼吃？”(050/09b/02～03)
- (40) 伯爵聽了，低了低頭兒，說道：“不打緊，假若我替你說成了，你夥計六人怎生謝我？”(045/01b/06～07)
- (41) 老婆笑道：“賊強人，倒路死的！你倒會吃自在飯兒，你還不知老娘

怎樣受苦哩！”(038/07a/05~06)

5.4.2 相異なる点

『金瓶梅詞話』における「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」には以下の相異点が見られる。

「怎麼」・「怎樣」・「怎麼樣」はセンテンスの末尾に置くことができ、「怎生」はできない。例を見てみよう。

(42) 你如今心内怎麼的？ 吃了些什麼兒沒有？(075/27b/11)

(43) 伯爵道：“哥！ 你如今心内怎樣的？”(079/14a/02)

(44) 平安道：“想必是家裡沒晚米做飯，老婆不知餓得怎麼樣的。閑的沒的幹，來人家抹嘴吃。”(035/11b/07~08)

5.5 「怎」・「怎的」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」の変遷

現代の蘭陵方言では、上述した「怎」・「怎的」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」・「怎麼樣」のような疑問代名詞のうち、「怎麼」は縮約されて「怎」になっており、「怎麼樣」は縮約されて「怎樣」になっているが、丁寧に言う場合として「怎麼樣」も使われる。総合的に言えば、蘭陵方言では「怎」・「怎的」・「怎生」・「怎樣」（「怎麼樣」を含む）のような疑問代名詞が使われている。これに対して、現代の北京方言では、「怎麼」・「怎樣」（「怎麼樣」を含む）が使われている。

ここで、「怎」・「怎的」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」（「怎麼樣」を含む）などの項目を対象として、元，明，清における分布を考察して、その変遷を見てみよう。用いる資料は『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戲曲集』、『水滸伝』、『金瓶梅詞話』、『紅樓夢』などである。「怎」・「怎的」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」の分布結果は以下の表2のようである。

表2 「怎」・「怎的」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」の分布表

| 作 品 名 | 所属時代 | 「怎」 | 「怎的」 | 「怎麼」 | 「怎生」 | 「怎樣」 | 備 考 |
|-----------|------|-----|------|------|------|------|-------------|
| 『元刊雜劇三十種』 | 元 | 214 | 11 | 3 | 72 | | |
| 『關漢卿戲曲集』 | 元 | 85 | 20 | 35 | 113 | | |
| 『水滸伝』 | 明 | 205 | 282 | 28 | 164 | | 「怎地」は主流とする。 |
| 『金瓶梅詞話』 | 明 | 214 | 788 | 167 | 79 | 59 | 「怎的」は主流とする。 |
| 『紅樓夢』 | 清 | 77 | 6 | 812 | 6 | 301 | |

この表から見れば、以下のように考えられる。

① 元代の『元刊雜劇三十種』は、「怎」と「怎生」が主に使われている。「怎的」は少数であり、「怎生」もかなり少なく、「怎樣」は用いられない。『關漢卿戲曲集』では、この状態が続いているが、「怎的」・「怎麼」の用例が少し増えてくる。

② 明代以降、『水滸伝』では、「怎」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」は基本的に変化が見られず、「怎樣」はやはり皆無である。最も注目されるのは「怎的」が急劇に増えたということである。『金瓶梅詞話』になると、「怎」には変化がみられないが、「怎的」・「怎麼」・「怎生」は比較的变化が見られ、「怎的」はさらに急増しており、「怎麼」はかなり増加し、「怎生」は減少している。注目されるのは、「怎樣」が使い始められたことである。

③ 『紅樓夢』になると、この疑問代名詞体系には徹底な変化が起こった。「怎」・「怎的」・「怎生」は急劇に減少し、ほとんど用いられなくなる傾向が見られ、「怎麼」・「怎樣」という体系が基本的に形成された。この推移は以下の図2のようである。

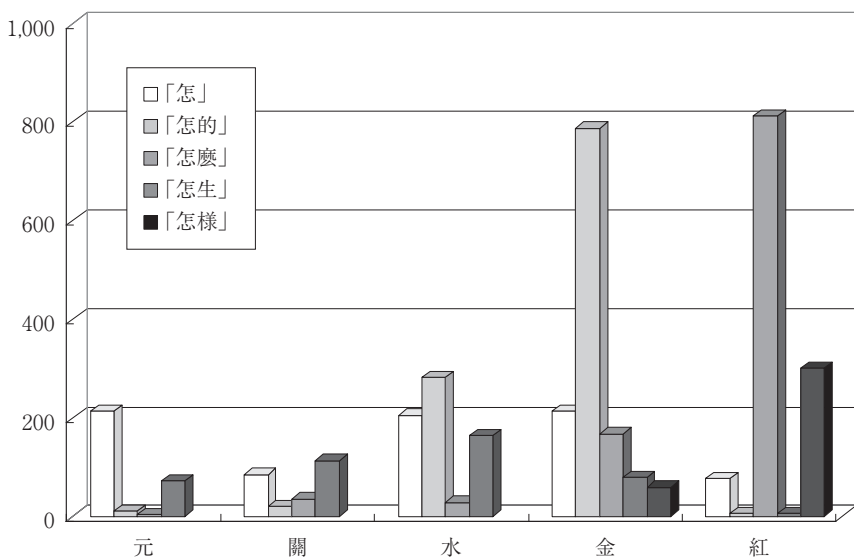


図2 「怎」・「怎的」・「怎麼」・「怎生」・「怎樣」の推移図

6 数量を指す疑問代名詞

主に使われるものは「幾」・「多少」・「多大」・「多咱」などである。

6.1 「幾」と「多少」の意味と使用環境

6.1.1 「幾」と「多少」の意味

『金瓶梅詞話』では、902回（誤字としての「已」2回を含む）「幾」が使われ、200回（誤字を除外する）「多少」が使われる。「幾」と「多少」は数量を指す疑問代名詞である。話し手が一定の単位で10未満の場合を判断した場合に、「幾」を使って数量を指して聞く。話し手が特に判断せずに、数量のどれほどかを指して聞く場合には「多少」が使われる。例を見てみよう。

- (1) 潘金蓮有心，便問棋童：“你每頭里拏幾個來？”(035/19b/08～09)
 (2) 因問：“哥，你使了多少銀子尋的？”(031/02b/10)

文脈によって、「幾」と「多少」には主に以下の3つの用法がある。

① 数量を指して聞く。「幾」と「多少」のいずれもを使って疑問を表すことができるが、「幾」の用例はかなり少ない。例を見てみよう。

- (3) 那婦人便問：“大官恁的時，沒了大娘子得幾年了？”(003/11b/09)
 (4) 哥！你自從到任以來，也和他問了幾樁事兒？(034/05b/11～06a/01)
 (5) 李瓶兒因問：“是多少銀子買的？休要使那枉錢，往後不過日子哩？”
 (062/12b/07～08)
 (6) 伯爵問：“二舅貴庚多少？”(067/22b/07)

② 反語を表す。「幾」と「多少」を使って、否定を表す。例を見てみよう。

- (7) 我的兒，你肚子裡裏胡解板兒－能有幾句兒？(067/13a/04)
 (8) 人死了多少時兒，老婆們一個個都弄的七顛八倒，恰似我的這孩子也有些甚根兒不正一般。(083/10b/04～05)
 (9) 你老人家不知，如今知府，知縣相公來往，好不四海結識人寬廣。你老人家能吃他多少！(007/04b/08～09)

③ 任意的のいくつであるかを指す。「幾」と「多少」を使って、特定の数量を指さない。特に、約90%の「幾」の用例はこの意味を表すのである。例を見てみよう。

- (10) 他還有些香蠟細貨，也值幾百兩銀子，教我會經紀替他打發銀子，教我收湊着盖房子。(016/05a/06～08)

- (11) 咱不如每人拏出幾兩銀子，湊了幾十兩銀子，封與應二，教他過去替咱每說說。(034/08a/06～08)
- (12) 李瓶兒道：“隨姐姐教我出多少，奴出便了。”(021/05b/05～06)
- (13) 西門慶道：“也不消，該多少銀子，等我與他。”(037/08b/08～09)

6.1.2 「幾」と「多少」の使用環境

話し手が聞き手に向かって発話するとき、「幾」と「多少」を使って、疑問を伝える。たとえば、上述した例(1)～(6)である。聞き手が話し手に向かって発話するとき、「幾」と「多少」を使って、反語を表す。たとえば、上述した例(7)～(9)である。なお、聞き手が、発話していない人物を話し手と見做し、そのような話し手から何らかの情報を得て発話する場合には、「幾」と「多少」いずれをも使って反語を表すことができる。

6.2 「幾」と「多少」の文法差

『金瓶梅詞話』における「幾」と「多少」には以下の文法差が見られる。

①「幾」は単独では文の要素として使われなく、「多少」は単独で文の要素として使われる。以下の例では、「幾」に替えることができない。例を見てみよう。

- (14) 一個後婚老婆，漢子不知見過了多少也。(030/08b/07～08)
- (15) 我替你整治這符水，你老人家吃了，官情就有。難得你明日另養出來，隨他多少，十個明星當不的月。(040/02b/02～03)

②「幾」のあとに単位詞がくることを条件として使われるが、「多少」のあとに来る形態素は単位詞ではなく、名詞である。もちろん、例外もある。たとえば、「多少里」である。特に注意を要するのは、「幾時」と「多少時」はいずれも使われるが、意味は異なる。「幾時」は「時点」を表し、「多少時」は「時

間」を表す。結果は以下の表3のようである。

6.3 「多大」の意味

『金瓶梅詞話』では、24回「多大」が用いられている。「多大」は数量や規模を指して聞くものである。数量を指す場合、すべての用例は時間の長さを表す。文脈によって、「多大」は疑問を表したり、反語を表したり、任意の数量や規模を指したりすることができる。一つずつ例を見てみよう。

(16) 平安兒，你問他，你這後娶婆兒是今年多大年紀了？(058/21a/03)

(17) 那婦人能有多大氣脉，被這漢子隔卓子輕輕提將過來，拖出外間靈卓子前。(087/08b/10～11)

(18) 二舅道：“姐夫，只陪俺每吃了沒多大同酒，就起身往別處去了。”(079/12a/01～02)

6.4 「多咱」の意味

『金瓶梅詞話』では、「多咱」には「多咱」・「多早晚」・「多咱晚」のような3つの表記法がある。『金瓶梅詞話』における「那咱」・「那早晚」・「那咱晚」のように、「多咱」・「多早晚」・「多咱晚」は同一の語の異なった表記法であると考ええる。

「多咱」は27回、「多咱晚」は5回、「多早晚」は1回用いられている。「多咱」・「多早晚」・「多咱晚」の意味は同じで、時刻を指して疑問を表す。「多早晚」・「多咱晚」の用例は「どのように遅い時刻」という意味を表す。たとえば、例(22)、(23)である。「多咱」・「多早晚」・「多咱晚」は疑問を表したり、反語を表したり、任意の時刻を指したりすることができるが、『金瓶梅詞話』では、反語を表す用例は見られない。例を見てみよう。

表3 「幾」と「多少」のあとに来る形態素表

| 単位詞 | 項目 | 「幾」 | 「多少」 | 単位詞 | 項目 | 「幾」 | 「多少」 | 単位詞 | 項目 | 「幾」 | 「多少」 | 単位詞 | 項目 | 「幾」 | 「多少」 |
|-----------------|----|-----|------|---------|----|-----|------|------------------------|----|-----|------|--------------|----|-----|------|
| 杯(盃) | | + | - | 首 | | + | - | 力 | | - | + | 願 | | - | + |
| 分 | | + | - | 家 | | + | - | 奇才 | | - | + | 醜款 | | - | + |
| 句 | | + | - | 張 | | + | - | 是非口舌 | | - | + | 道眾 | | - | + |
| 個(箇, 个) | | + | - | 把 | | + | - | 是非 | | - | + | 價 | | - | + |
| 両 | | + | - | 條 | | + | - | 年紀 | | - | + | 東西 | | - | + |
| 碗 | | + | - | 回 | | + | - | 茶果錢 | | - | + | 悲歡事 | | - | + |
| 場 | | + | - | 朵 | | + | - | 青春 | | - | + | 長吁短嘆 | | - | + |
| 時 _{時点} | | + | - | 胎 | | + | - | 錢 | | - | + | 心力 | | - | + |
| 點 | | + | - | 件 | | + | - | 時 _{時間} | | - | + | 傷心處 | | - | + |
| 貫 | | + | - | 件子 | | + | - | 琵琶 | | - | + | 花朵 | | - | + |
| 遍 | | + | - | 下 | | + | - | 日子 | | - | + | 房子 | | - | + |
| 日 | | + | - | 下子 | | + | - | 禮兒 | | - | + | 東修 | | - | + |
| 年 | | + | - | 度 | | + | - | 釘 | | - | + | 昏札 | | - | + |
| 月 | | + | - | 客 | | + | - | 遺數 | | - | + | 工夫 | | - | + |
| 位 | | + | - | 席 | | + | - | 罪業 | | - | + | 印刷 | | - | + |
| 套 | | + | - | 根 | | + | - | 重 | | - | + | 分兩 | | - | + |
| 塊 | | + | - | 隊 | | + | - | 海棠 | | - | + | 分資 | | - | + |
| 正 | | + | - | 丸 | | + | - | 春風夜月 | | - | + | 小唱 | | - | + |
| 次 | | + | - | 方 | | + | - | 賭缸 | | - | + | 恩情 | | - | + |
| 步 | | + | - | 刀 | | + | - | 里(單位詞) | | - | + | 紅日 | | - | + |
| 腳 | | + | - | 拶子 | | + | - | 紅粉 | | - | + | 帶頭 | | - | + |
| 拳 | | + | - | 回(間, 回) | | + | - | 彩禮 | | - | + | 淚 | | - | + |
| 樣 | | + | - | 斛 | | + | - | 銀子 | | - | + | 卓席 | | - | + |
| 行 | | + | - | 大杯 | | + | - | 歡娛 | | - | + | 銀兩 | | - | + |
| 遭 | | + | - | 大盤 | | + | - | 南曲 | | - | + | 心 | | - | + |
| 十 | | + | - | 着子 | | + | - | 酒 | | - | + | 事 | | - | + |
| 百 | | + | - | 座 | | + | - | 金尊(樽) | | - | + | 尿 | | - | + |
| 千 | | + | - | 科 | | + | - | 腰瘦故知 | | - | + | 勾當 | | - | + |
| 萬 | | + | - | 番 | | + | - | 時分 | | - | + | 醉淹魂 | | - | + |
| 對 | | + | - | 服 | | + | - | 孤魂 | | - | + | 字 | | - | + |
| 颯 | | + | - | 娘 | | + | - | 人情禮物 | | - | + | 氣 | | - | + |
| 房 | | + | - | 鞋底子 | | + | - | 骨頭肉兒 | | - | + | 春色 | | - | + |
| 碟 | | + | - | 蘆 | | + | - | 造化 | | - | + | 屯田 | | - | + |
| 庄(椿) | | + | - | 枝 | | + | - | 進酒 | | - | + | 本利 | | - | + |
| 段 | | + | - | 味 | | + | - | 有錢者 | | - | + | 柳色 | | - | + |
| 跳 | | + | - | 副 | | + | - | 錦帶 | | - | + | 房錢 | | - | + |
| 錢 | | + | - | 口 | | + | - | 瓊環 | | - | + | 花陰 | | - | + |
| 鞭子 | | + | - | 卷 | | + | - | 長吁短嘆 | | - | + | 宮人紅袖 | | - | + |
| 馬鞭子 | | + | - | 摺 | | + | - | | | | | | | | |
| 歲 | | + | - | 曲 | | + | - | 微雨過壁磯之 潤晚風涼院落 之清 | | - | + | 壺斟美釀盤列 珍羞 | | - | + |
| 隻 | | + | - | 篇 | | + | - | | | | | | | | |
| 棍 | | + | - | 章 | | + | - | | | | | | | | |
| 聲 | | + | - | 間 | | + | - | | | | | | | | |
| 送 | | + | - | 名 | | + | - | | | | | | | | |
| 截(截) | | + | - | 揉 | | + | - | | | | | | | | |
| 姐 | | + | - | 拽 | | + | - | 腰瘦故知問事 惱 | | - | + | 舞低楊柳樓心 月 | | - | + |
| 陌 | | + | - | 星 | | + | - | | | | | | | | |
| 畝 | | + | - | 夜 | | + | - | | | | | | | | |
| 推 | | + | - | 巡 | | + | - | | | | | | | | |
| 缸 | | + | - | 車 | | + | - | 春點碧桃紅綻 藍 | | - | + | 脂香滿口涎 | | - | + |
| 筐 | | + | - | 頃 | | + | - | | | | | | | | |

疑問を表す例：

- (19) 桂姐道：“多咱去？ 如今使保兒先家去說一聲，作個預備。” (011/09a/11)
- (20) 問小玉：“這天有多咱晚了？” 小玉道：“已是四更天氣，雞鳴叫。” (039/19a/02～03)

任意の時刻を指す例：

- (21) 婦人道：“不知多咱纔散，你到那裡坐回就來罷。” (042/03b/05042/03b/06)
- (22) 玳安道：“我的馬走得快，你步行，赤道挨磨到多咱晚。惹的爹說。” (068/20a/10～11)
- (23) 桂姐道：“爺噤！ 遭遭兒有這起攘刀子的。又不知纏到多早晚！ 我今日不出去。” (032/04b/06～07)

参 考 文 献

- 長澤規矩也 1963 「『金瓶梅詞話』影印の過程」, 『大安』, 五月号, 大安書店, 東京。
- 呉福祥 1996 『敦煌變文語法研究』, 岳麓書社, 長沙。
- 志村良治 1984 『中国中世語法史研究』, 三冬社, 東京。
- 唐 鈺 1926 『国故新探』, 商务印書館, 上海。
- 吕叔湘, 江蓝生 1985 『近代漢語指代詞』, 吕叔湘著, 江蓝生补, 学林書版社, 上海。

本稿は松山大学 2009 年度国外研究の成果である。